

あんしん  
財団賞

## 三浦さんとわたし

国立大分大学教育学部附属小学校 \*三年 佐藤 茉歩

「おはようございます。」

毎朝、校門を通るときに、元気にあいさつをする。これがわたしの学校のスタートだ。

わたしの学校は、ようち園、小学校、中学校、特べつ支えん学校が同じしき地にある、大きな学校である。校門にはいつも守えいの三浦さんがいてくれる。

ようち園の時に、お母さんに、「守えいさんって何？」と聞いたことがある。「学校の安全を守っているお仕事をしてくれる人だよ。」と教えてくれた。わたしは、守えいさんは学校を守るヒーローだと思っている。

三浦さんは暑い日も寒い日も、雨の日も校門に立っている。そしてわたしたちに声をかけてくれる。もちろん仕事はそれだけではない。学校に用事でやって来た人に、ちゅう車券を発行したり、入校手続きをしたりしてくれる。いつ人が来るかわからないから、三浦さんはいつも立っている。疲れるだろうなあ、大へんだろうなあ、と思う。学校行事などで、たくさんの方が来る時には、車をちゅう車場に案内するのも三浦さんの仕事だ。門を通る車一台一台声をかけて、案内する。

去年、こんなことがあった。わたしが体そうふうくを忘れて、土曜日に学校に取りに行くことにした。お母さんに「学校、開いていないんじゃない？」と言われ、とてもふ安だったが、いつも通り三浦さんがいて、びっくりした。「学校が休みなのに、どうしているの？」と、たずねたの。中学生が部活をしているから、土曜日も来ているん

だよ。」と教えてくれた。三浦さんは、学校の先生の車を全部おぼえている。「さつき教頭先生の車が入っていたから、きつと学校は開いているよ。」と言われて、わたしはほっとした。体そうふうくを持って校門を通るわたしに、三浦さんが「気をつけて帰りよ。」と言ってくれた。

三浦さんのむねには、かわいいフェルトの手作りバッチがついている。保ご者がプレゼントしたそうだ。子どもだけでなく、保ご者にも人気がある三浦さんは、やっぱり学校のヒーローだと思う。わたしにはひそかな楽しみが二つある。一つは、校門横にある三浦さんの部屋にかざってある、ゆらゆらと首がゆれる人形だ。三浦さんが、子どもたちによるこんでもらおうと思ひ、かざってくれた人形である。わたしは毎日この人形を見るのが楽しみだ。ゆらゆら人形を見て登校し、ゆらゆら人形を見て、下校する。

そしてもう一つは、三浦さんと帰りにじゃんけんをすることだ。じゃんけんに勝つとうれしくなる。なので、いつも帰りは、ちょっぴりわくわくして校門を通っている。

朝、どんなに急いでいても、帰りに荷物が多くて、いやな気分でも、三浦さんとのじゃんけん、ゆらゆら人形があるので、わたしは学校に通えていると思う。

三浦さんいつもありがとうございます。これからもよろしくおねがいします。